

経済・金融フラッシュ

No.08-011 2008/4/23

貿易統計 08年3月～アジア向け輸出が急減速

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

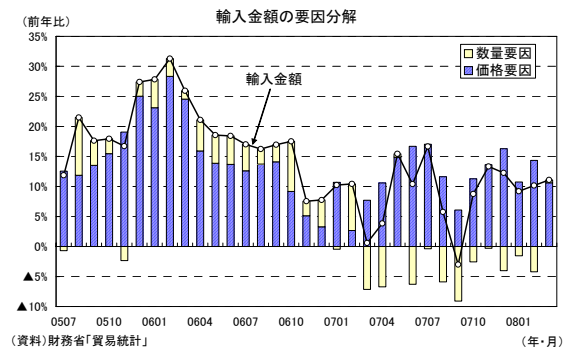
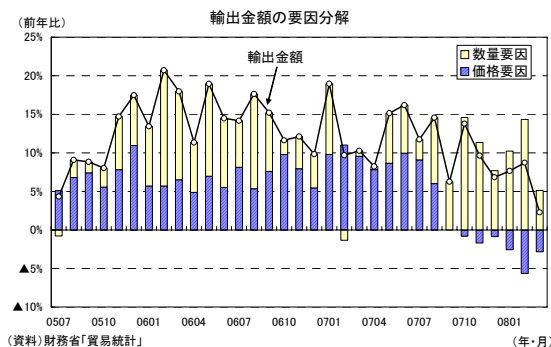
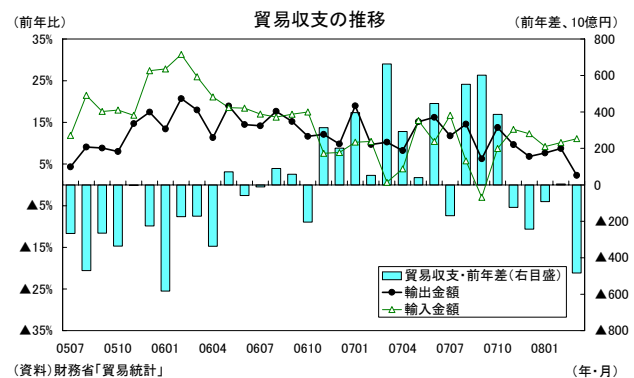
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は2ヵ月ぶりに悪化

財務省が4月23日に公表した貿易統計によると、3月の貿易黒字は11,186億円（前年比▲30.2%）となり、市場予想（ロイター集計：14,000億円、当社予想は11,552億円）を大きく下回った。輸出の伸びが大きく鈍化する一方、原油高の影響で輸入が2ヵ月連続で前年比二桁の伸びとなったため、貿易収支は2ヵ月ぶりに前年よりも悪化した。

円高の影響で、輸出価格が前年比▲2.7%（2月：同▲5.2%）と7ヵ月連続でマイナスとなる中、輸出数量の伸びが前年比5.2%（2月：同14.7%）と急速に鈍化したため、輸出金額は前年比2.3%となった（2月：同8.7%）。

原油高の影響などから輸入価格が前年比10.6%（2月：同14.6%）と6ヵ月連続で二桁の伸びとなり、輸入数量が前年比0.5%（2月：同▲3.9%）と10ヵ月ぶりに増加に転じたため、輸入金額は前年比11.1%（2月：同10.2%）となった。なお、中国製冷凍ギョーザの中毒事件の影響から、中国からの食料品輸入は前年比▲32.2%と2月の同▲28.0%に続き大幅減少となった。

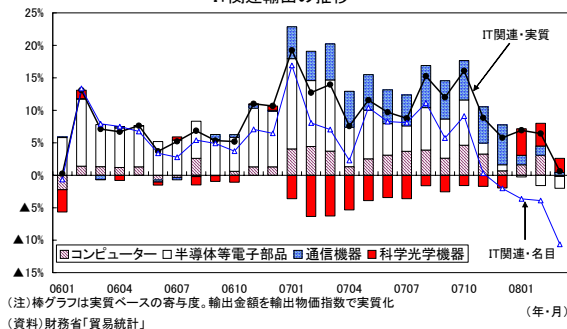


2. アジア向け輸出が急減速

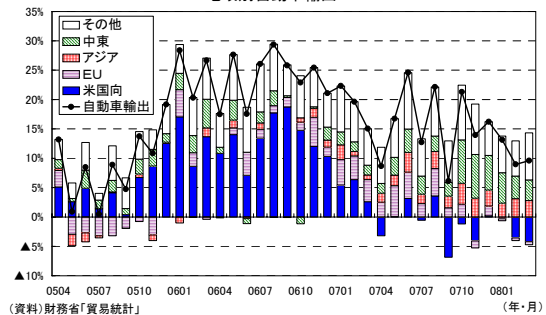
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器（名目・前年比 3.6%）は増加したものの、コンピューター（同▲12.9%）、コンピューター・部分品（同▲15.3%）、半導体電子部品（同▲15.5%）が大幅に減少し、全体では前年比▲10.6%と二桁のマイナスとなった。IT 関連品目は価格の大幅な下落が続いているため、実質ではかろうじて増加を維持したが、伸び率は2月の前年比 6.4%から同 0.6%へと急速に鈍化した。国内の電子部品・デバイスの在庫調整はいったん終了したと見られていたが、鉱工業指数の基準改定（00年→05年）に伴い、電子部品・デバイスの出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は旧基準のプラスからマイナスへと修正された。同業種の在庫積み上がり幅は現時点では小さいため、本格的な在庫調整のリスクは低いと見られるが、昨年後半のように生産の牽引役になることは当面期待できないだろう。

自動車輸出は前年比 9.6%（2月：同 9.0%）となった。米国向けは前年比▲11.1%の大幅な減少となり、EU 向けも同▲3.1%と 3 ヶ月連続の減少となったが、アジア向け（同 35.9%）、中東向け（同 34.6%）、ロシア向け（同 61.4%）が引き続き高い伸びとなった。

IT関連輸出の推移



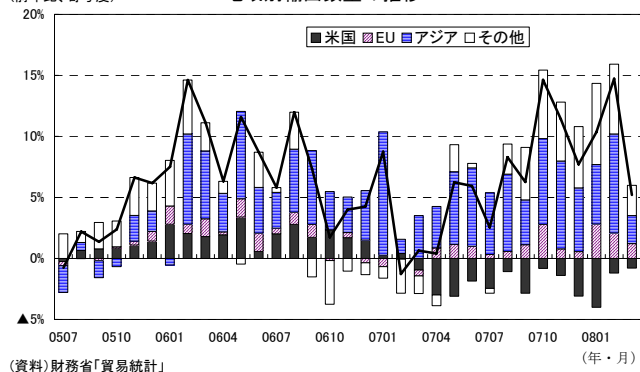
地域別自動車輸出



輸出数量を地域別に見ると、米国向けが前年比▲3.8%（2月：同▲5.0%）とマイナス幅が縮小したが、EU 向け（2月：前年比 15.7%→3月：同 9.8%）アジア向け（2月：前年比 16.7%→3月：同 4.6%）の伸びが急速に鈍化した。アジア向け輸出は旧正月のズレの影響で月々の振れが大きくなっている可能性があるが、1-3 月期の平均で見ても前年比 9.9%と 07 年 10-12 月期の同 13.1%から伸びが大きく鈍化しており、アジア向け輸出は基調として減速し始めている可能性が高い。

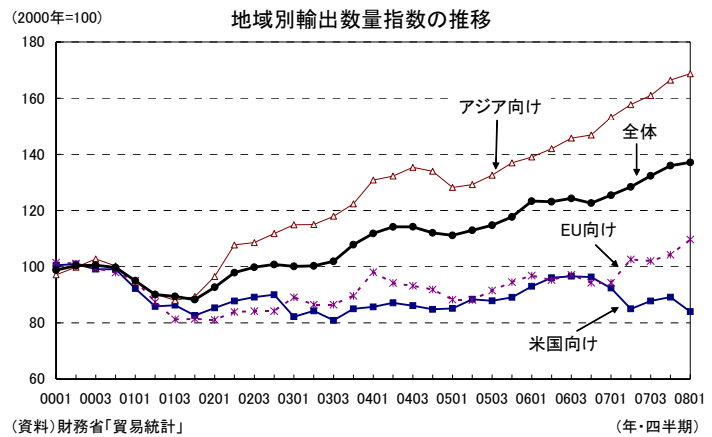
また、3 月の輸出数量の伸びを地域別の寄与度で見ると、EU 向け、アジア向けの増加寄与が縮小したことに加え、これ

地域別輸出数量の推移



まで好調を続けてきた「その他地域（米国、EU、アジア以外）」向けの寄与が大きく縮小した。今月の結果だけで判断することは早計だが、米国経済急減速の影響が世界経済に及び始めた兆候と見て取ることも可能だろう。

1-3 月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲5.8%、EU向けが同 5.2%、アジア向けが同 1.4%、全体では同 0.9%となった。EU 向けの伸びは高まったものの、米国向けが 3 四半期ぶりに減少となったことに加え、アジア向けの伸びが鈍化したことから、全体の伸びは 10-12 月期の前期比 2.7%から急速に低下した。



3. 外需は 10-12 月期に続き 1-3 月期も成長率を大きく押し上げ

3 月までの貿易統計と 2 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、08 年 1-3 月期の実質 GDP ベースの輸出入を試算すると、輸出が前期比 4%程度、輸入が同 2%程度となった。外需寄与度は 10-12 月期には前期比 0.5%となり、経済成長率を大きく押し上げたが、1-3 月期も同程度のプラス寄与になると予想される。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)